

■藤原高子(二条后) 清和天皇の女御。初恋の在原業平と引き裂かれ、両者同年の死後に謀略で、従兄の弟子と密通とされ廃后。

ふじわらのたかいこ
承和の変・・・842＝

枇杷殿で、藤原長良の三女に生まれる。母は藤原総経の娘乙春。_基経の妹。

・・・・・・・851＝9歳：

・・・・・・・856＝15歳：従二位・権中納言兼左衛門督の父長良が死去。兄基経とともに、_叔父良房の後ろ盾を受け、
良房のひとり娘明子は前天皇文徳の女御となっており、
人民摂政の実858＝16歳：この年、文徳天皇が死去し、_明子所生でまだ8つの清和天皇が踐祚すると、
・・・・・・・859＝17歳：_即位に伴う大嘗祭で、良房の手持ちの唯一の処女として、天皇との結婚を前提とした五節舞姫となる。
・・・・・・・860＝18歳：_おそらく、この年、初の男性として在原業平と密通し、
・・・・・・・861＝19歳：_再び訪れた業平と密通するが、良房の断固たる意志によって引き裂かれ、

富士山噴火・864＝22歳：_以後、失意の生活となるが、貴族社会のアイドル業平とのことは当然知られるところとなり、
この年、清和天皇が元服。

_特に、良房の弟良相によって、入内への難色を示されたため、
応天門の変・866＝24歳：*良房が応天門の変によって良相を失勢させ、清和の女御にされる。良相の娘多美子が寵愛を受けるなか、
・・・・・・・867＝25歳：越階して正五位下。
・・・・・・・868＝26歳：_貞明親王を出産、
貞観格・・・・869＝27歳：_親王が正式に皇太子となり、越階して従四位下。
・・・・・・・870＝28歳：_続いて、貞保親王を出産、
貞観式・・・・871＝29歳：_従三位となるも、なお、多美子の下位に甘んじる。
_さらに、敦子内親王を出産するも、業平への恋情忘れがたく、天皇とは親しめない自らの立場から、実家
への反撥を高め、また、鬱憤を晴らすかのように歌宴を催して、後宮歌壇の中心となり、自らの作も古今集
に採られる。

・・・・・・・876＝34歳：*清和天皇が退位し、貞明親王が踐祚するや、おそらく働きかけて、業平を右近衛権中將に拔擢させ、
・・・・・・・877＝35歳：即位(陽成天皇)したのに伴い、皇太夫人(のち皇太后)となる。_相模権守を兼ねさせて収入を増加させ、
出羽元慶の乱878＝36歳：山城国愛宕郡に東光寺を建立。_頭中將として参議目前まで引き上げるが、

基経太政大臣880＝38歳：*業平は死去してしまう。この年、清和上皇も死去。

さらに、_実兄基経による陽成廃位をめざす陰謀が進められ、

基経関白の実884＝42歳：_ついに陽成が退位させられると、既に入手してあった二条院に移転し、“二条の後”と呼ばれる。
_早くから、従兄の僧幽仙と親交していたが、

・・・・・・・886＝44歳：この頃、_幽仙の推薦で、その弟子善祐が東光寺座主になると、
宇多天皇即位887＝45歳：早くも、_この頃には親密になったらしく、

・・・・・・・889＝47歳：_宇多天皇が日記に、高子の病臥は善祐の子を宿したためという噂に苦しむと記載しているように、密通の
噂が出回るが、この時点では何等の措置も講じられず、
道真蔵人頭・891＝49歳：この年、上皇によって盛大な五十の算賀が催される。

退位後自暴自棄のあまり乱暴になっていた上皇も、天皇の配慮で関係が急速に改善、乱行もなくなる。

_おそらく、陽成上皇の復辟運動を封ずるために、
・・・・・・・896＝54歳：
宇多上皇・・・・897＝55歳：*8年もたって、善祐と密通したとして、年皇太后の号を廃される。善祐は伊豆に左遷。
_しかるに、優遇の途は講じられ、

・・・・・・・900＝58歳：臨時給の恩典も授けられ、
菅原道真左遷901＝59歳：

生涯出家することはなかったが、東光寺に対する情熱は衰えることなく、

古今和歌集・905＝63歳：この頃には、東光寺伽藍がほぼ完成。善祐の弟子が座主をつとめ、定額寺にも列せられるなど、

_廃后があくまでも政治的な理由だったことを明らかにする状況のなか、静かに暮らし、

・・・・・・・910＝68歳：_没した。